



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

心の目盛り

校長 萩原 哲哉

猛暑は容赦なく続いていますが、夜になると心地よい風が吹いたり、虫の鳴き声が聞こえてきたり。季節は秋に向かって確実に進んでいるを感じさせてくれます。

さて、秋といえば、「秋は夕暮れ」。清少納言「枕草子」の初段・秋の部分です。現在は小学校で音読教材としても登場しますが、詳しくは中学校になってから学習します。例えばペーパーテストでは、次のような問題が出題されます。

「春はあけぼの」「夏は夜」「秋は夕暮れ」「冬はつとめて(早朝)」のあとに省略されている言葉(古語)を、それぞれ答えなさい。

答えには「あは(わ)れ」か「を(お)かし」が入ります。秋だけが「あはれ」、春・夏・冬は「をかし」です。「をかし」は、心がわくわくするような思いを表し、「あはれ」は、心がしんみりするような思いを表します。

これを現代に当てはめた文章を目にしました。

(昭和の若者) 春はすごい。夏もすごい。秋もすごくて、冬はもっとすごい。
(平成の若者) 春ってヤバイ。夏もヤバイし、秋だってヤバイ。冬もヤバくない？
(令和の若者) 春はエモい。夏もエモい。秋もエモいし、冬もエモい。

「エモい」の意味を知ったのは、つい最近です。「emotion(感情)」が語源とされる若者言葉で、一時期だけの流行語だろうと思っていましたが、『大辞林(三省堂)』に、見出し語として収録されたと聞きました。

新しい言葉が生まれるのは文化の現れですし、日本語の造語力は誇るべき特徴と考えています。ただ、携帯文化・LINE文化と相まって、何でも「エモい」で済ませてしまうことには、危機感を感じています。

人は言葉を頼りにして物事を考えます。自分の気持ちにふさわしい言葉、その場にあった言葉を、精度を高めて使っていければ、より深く考え、伝えることができます。

たくさんの言葉を使いこなす力を「語彙(ごい)力」と言います。語彙力がないと、相手の言葉を正確に理解し、自分の気持ちを的確に伝えることが難しくなり、結果として子どもは「キレ」やすくなります。社会に出れば友人だけで通じる言葉など役に立たず、相手に説明したり、相手の思いを理解したりする力が求められ、そこに語彙力は不可欠です。

語彙力向上には読書が一番なのですが、まずは自分が使っている言葉の矛盾に気付くことから始めてほしいと思います。「あれ、今の自分の気持ち。『* *』って言葉では、言い尽くせてない気がする。」・そうした思いから、言葉を大切に作る気持ちが生まれてくるものです。

語彙は心の目盛り。日本語への尊敬の気持ちを受け継ぐためにも、多くの言葉を取り込んで、自分の心の目盛りを増やし、多くの「メモリー(思い出)」を残して行ってほしいと思います。